

会員と千葉県連盟をつなぐ

# ちばニュース

2016年11月号



千葉県勤労者山岳連盟

Chiba Workers Alpin Federation

2016年11月1日発行 通巻283号

県連創立50周年を

全会員の参加で祝おう!

## 11月号目次

・ 目次	2
・ 10月理事会報告	3
・ 事故防止経験交流集会案内	5
・ 50周年記念集会案内	6
・ 「ゆう」たより	7
・ 登山白書より —ヘルメットを被ろう—	8
・ 県連たより	9
・ 県連予定表	10

### 表紙説明

県連45周年記念の、エベレスト街道トレッキング以来のネパールに行ってきました。

長年の夢であった「ムスタン王国の首都ロー・マンタン」に馬にゆられて、ビスタリー・ビスタリーのホーストレッキングでした。

何回かに分けて報告したいと思います。

表紙は、6時18分 ダウラギリ峰（8167m）白い山の意味

—ちば山の会 広木国昭—

## 2016年度10月県連理事会報告

1. 日 時 2016年10月20日（木）19時～
2. 場 所 船橋市西部公民館
3. 欠 席 広木会長、古瀬顧問、岡田教育遭難対策委員長、救助隊  
君津ケルン、岳人あびこ、市川山の会、松戸遠足クラブ1年さくら組  
千葉アルパインクラブ あじさい山の会

### 4. 議事

#### ① 委員会報告

- ・教遭委員会（山崎委員より報告）

- \* 直近の事故2件 ちばやまの会 9月24日 山形クライミングジム

- ボルダリングでの落下 女性

- ちば山の会 10月9日 東北二口山塊 沢登り

- 滝登り中、先行者が滑落し後続者が負傷

- \* 山の会らんたん 理事より口頭報告

- 10月15日 74歳（女）単独山行 北アルプス奥穂高から

- 涸沢に下山中転倒 かかと骨折 ヘリで救出

- ・ハイキング委員会

- \* 第33回房総ロングハイク募集

- 2017年1月28日～29日 清澄寺～一杯水林道～烏帽子山～向峯林道～鶏毛山

- 募集人員 約60名

- ・自然保護委員会

- \* 来年度のクリーンハイク5月初旬か6月に実施予定

- ・その他委員会 特になし

#### ② 9月27日第2回6会合同会議報告（鶴田副理事長）

- ・第1回会議を受けて、各会会員への県連の実情報告とそれに対する反応

- 実情は理解してもらったが積極的に対応しようという意向の会はない

- また多忙で理解活動未実施の会もあり。

- ・6会の役目について 役員選出のルールを作るだけという認識の会もあった。

- 6会の役目は、ルール作りと役員を選出ということで共通認識が得られた。

- ・選出役員は会長、理事長、事務局長の三役 任期2年 再選を妨げないことで合意。

- ・次回は6会合同会議 11月14日（月）17時～ 県連事務所

- \*6会の役目はルール作りだけと聞いていた。選出も6会から行うとは聞いていない

- という疑問が出されたが納得してもらった。

#### ③ 創立50周年事業関連

- ・記念誌（ちば山 理事より報告）

- \* 記念誌の内容は創立から40周年までは簡単に、その後の10年間に力点を置く。

- \* 各会の紹介をどのようにするかを検討中
- ・記念交流集会
  - \* 2017年1月14日～15日 清和県民の森 参加費 一人1,000円
  - \* 実行委員会に各会より1名以上の参加をお願いする  
次回実行委員会 11月30日に実施。
  - \* これに対して11月の理事会を50周年記念事業関連検討の場としここで記念交流集会の実行委員の選出も行ったかどうかという提案があった。  
役員会で検討し報告する事。

④その他

- ・ちば労山ゆう 支援活動報告  
10月 福島南相馬地区 9名で実施した。  
11月 11月12日(土)13日(日)実施予定。  
事故防止経験交流集会と日程が重なるが4~5名で実施予定  
(その後 参加予定者は 10名前後になりそう)
- ・ふれあいハイク岡田実行委員長より  
ふれあいハイク実施時の設備費として、障千連より1万円の寄付があった。  
県連会計に納入する。
- ・山の会らんたんより  
登山時報 新規購読希望者が2名いる、購読申し込みについて質問があった。  
購読申し込み書をらんたん理事に宛郵送した。(鶴田副理事長対応)

以上 鶴田 記

**登山時報 11月号より (全国遭難対策部報告より抜粋)**

8月9日から9月14日までに「新特別基金運営委員会」が受理した事故一報は47件49人。内訳は、26人が転倒(無雪期登山19人、沢登り6人、クライミング1人)、9人が転倒、滑落(沢登り4人、無雪期登山4人、クライミング1人)、他は3人が無雪期登山での落石、虫刺され、病気、歩行中、クライミング中が各2人。テント撤収作業中、滝すべり中が各1人。病気の2人は同じパーティーの山行中の脱水症でヘリ救助。虫刺されの2人はスズメバチとブヨ。

足首・大腿骨・下肢5人が、尾てい骨・肋骨・胸骨・鎖骨・右肩骨折が8人、手首・腕の骨折が7人、足首・膝の捻挫8人、膝の靭帯・関節損傷が5人、手指損傷3人、右肩脱臼・打撲が3人、左腕捻挫・左胸打撲が各1人、頭部裂傷、前歯損傷が4人。

男性(16人)女性(33人)で、年齢構成は20代1人、30代4人、40代4人、50代12人、60代17人、70代10人、80代1人であった。高齢会員の体力維持に真剣に取り組んでほしい。

◆ 同ページに、新特別基金運営委員会よりから、事故一報の遅れが指摘されている。事故一報の提出は、事故日から30日以内です。FAXの送着信の確認、提出期限の厳守をお願いしたい。うっかりミスで交付の権利放棄は、会・クラブでしっかり管理して防いでほしい。

# 2016 事故防止・経験交流集会の案内

千葉県勤労者山岳連盟・教育遭難対策委員会

掲題の件、久しく船橋県民の森：研修棟「さざんかの家」を使用してきましたが、諸事情（マンネリ化に加え、使用条件「禁酒 禁煙」等）により、本年度は下記に場所を変更します。

千葉県連では近年事故は減少（本年 2 件）していますが、気分一新の上、更なる事故防止に向けた取り組みを展開したく、各会よりの積極的な参加を期待します。

詳細は下記を参照下さい。

## 記

- 1) 主催 千葉県連盟・教育遭難対策委員会／協力：千葉県連盟救助隊
- 2) 日時／場所 11月12日（土）－13日  
12日 13:00<12:00 受付開始>－13日 12:00 終了  
大山青少年研修センター 鴨川市平塚 1717-15 04-7098-033
- 3) 内容 11／12 ①今年度の事故に関する取り組み報告 13:00－13:40  
シリウス☆山の会 ちば山の会  
②各会での事故防止取り組み報告 13:40－14:10  
かがりび山の会他  
<休憩> 14:10－14:30  
③筋トレ講習 講師：荒井トレーナー 14:30－16:00  
④救急法等の事前予習：救助隊 16:00－17:00  
⑤夕食／各会紹介／交流会 17:30－20:30  
  
11／13 ⑥救急法及び搬送法講習：県連救助隊 8:00－11:30  
ロープワーク基礎  
必要装備：7点セット（スリング 60cm2 本 120cm 1 本  
カラビナ 2 <環付き 1 > 補助ロープ 6~8mm \* 10m  
ツェルト)
- 4) 参加費 3,000円／人。交通は各会毎に。 単日での参加可<費用1,000円>。
- 5) 装備／食事 装備（宿泊用）：卓上コンロ コッヘル クーラーbox 食器等。  
食事／飲み物は各会毎に。
- 6) 宿泊設備 風呂、布団、食堂（炊事室）有り。
- 7) 実施規模 40名（スタッフ含む）
- 8) 参加申込／締切 教育遭対委員会 伊東へ10／20までに  
mail：itou2385@yahoo.co.jp  
会場の都合上、申込多数の場合は、調整する事が有ります。申込書添付。
- 9) 問い合わせ先 教育遭対委員会 岡田：[ken-ichi@f4.dion.ne.jp](mailto:ken-ichi@f4.dion.ne.jp) 080-4197-7700

千葉労山

仲間と楽しく

## 創立50周年記念交流会

歌おう山の歌

清和県民の森

ハーモニカ・アコーディオン伴奏付

千葉県連創立50周年事業のファイナルとして「記念交流会」を実施します。この記念交流会が、創立50周年、最後で最高の事業です。

全会の参加で、創立50周年を喜び、次世代への第一歩を踏み出す記念集会にしたいと思います。

詳細については、11月17日（木）19時より 船橋市西部公民館において、県連理事+各会選出実行委員で決定します。

参加・協力をお願いします。

### 実施概要

- |              |   |
|--------------|---|
| 1 実施日        | 2017年1月14日（土）13時集合<br>15日（日）12時解散                                 |
| 2 会場         | 千葉県立「清和県民の森」ロッジ村  |
| 3 参加費        | 一人1,000円（施設利用料 320円含）<br>ロッジ使用料（3,350円）県連より補助します。                 |
| 4 実行委員会      | 各会より、1名以上の参加をお願いします。  |
| 5 内容（予定）について | ① 創立50周年の歴史と、仲間を感じられる事。<br>② 参加者全員で創り、楽しめる事。<br>③ 楽しい気持ちで、解散出来る事。 |

☆ 問い合わせ・ご意見・要望などをお寄せください。

連絡先 [danphiro@zpost.plala.or.jp](mailto:danphiro@zpost.plala.or.jp)（広木まで）

# ヘルメットを被ろう。

## 頭は一つしかないんだよ

西本武志（日本勤労者山岳連盟会長）

痛ましい山の死亡事故が、後を絶たない。

なぜなのか——。その背景や要因はいくらでもあげることができる。技術未熟、経験と知識不足、学習嫌い、健康に対する無配慮、山とは“危険の塊”<sup>かたまり</sup>であるという認識の欠如、さらには打ち合わせなしの安易な“メール（募集）山行”の流行、そしてなにより——たいへん遺憾なことではあるが——山岳会・山岳団体の弱体化がもたらした指導性と影響力の低下、とりわけ教育機能の減退に思いをめぐらざるを得ない。

だがここでは、ひとまずそういう背景や要因はわきに置いて、登山者の生命を守るうえで、即効が認められるヘルメット着用の緊急性・必要性を強調し、その標準装備化を提案したい。3000メートル級の高山はもとより、里山といっても差し支えないような低山でも、転・滑落や落石で頭部を損傷し、死にいたるほどの重大事故が続発しているからだ。“せめてヘルメットを被っていたら、死なずに済んだらうに”と、気の毒に思われなければならない事故は枚挙にいとまなしなのである。

それにつけても、すぐ脳裏に浮かぶのはヘルメットの効用と着用の必要性を説いた、『生と死の分岐点山の遭難に学ぶ安全と危険』（黒沢孝夫訳／山と溪谷社・1997年）の著者、ピット・シューベルト（ドイツ山岳会ならびに国際山岳連盟安全委員長・当時）の言葉である。

《……人間には頭が1つしか付いていないのだから、（頭を）危険からは守ったほうがよい》（同書・203p）。

頭は一つしかない！ 至言ではないか。

だが——登山の世界では、あまり生かされているとは思えないが——この国の建設現場や工事現場にも、示唆に富んだ労働安全標語が普及していることを忘れてはなるまい。“一メートルは一命取る”——。たったの一メートル落ちただけでも、頭を打ったりすれば一命を取られかねないから、お互いに十分気をつけようではないか、という戒めである。ヘルメット着用がさまざまな工事現場で定着しているのも至極当然のこととしてうなずけよう。

では、山の世界はどうか。まことに寒いのが現状である。

たとえば——スキー場での、着用者の飛躍的増加はい

うにおよばず、通勤カバンにおさまってしまう防災用の軽量折り畳み式ヘルメットが売り出されたり、自転車利用者のヘルメットの義務的着用を条例化した地方自治体まで現れるというご時世であるというのに、である。

北アルプスや御嶽山など、一部の山小屋が有料で貸し出しを始めたのは一歩前進といえるが、他方、事故人口の大半を占める尾根歩き派や縦走派は、ヘルメットなど“無用の長物”と心得ているのか、普通の帽子同様に被るのになんの知恵も技術も必要としない、おまけに頭部保護に絶大な効力を発揮する、紙みたいに軽くて見た目にも悪くないヘルメットが、比較的安く手に入ることを知ってか知らずか、ほとんど見向きもしないのである。残念というほかない。たかだか数千円の出費を惜しんだりせず、ヘルメットを購入（被る）する登山者が増えれば、死者の何割かはそれに反比例して確実に減るに違いないのだが。

最後に。登山の世界で社会的責任を負うべき山岳団体、とりわけ日本勤労者山岳連盟にせよ、日本山岳協会にせよ、一般登山者に広くヘルメットの着用を働きかけ、その標準装備化のために力を尽くすことに熱心だったとはとうていいいえないことを、痛切な反省を込めて告白しなければなるまい。

両団体には、出自の違いや方針上の異同もある。だが、この国の「登山文化の継承発展」と「広範な登山愛好者に対する便宜供与」という大目的は共通する。死亡事故を減らすための方策の一つとして、すべての登山愛好者にヘルメットの着用を呼びかけ、その標準装備化に努力することも、理屈抜きにそういえる課題の一つといえよう。

百のお説教よりヘルメットを！

いまからでも遅くない。ともに力を合わせて取り組みたいものである。

西本武志（にしもと たけし）

1940年、東京都練馬区に生まれる。64年、練馬勤労者山岳会創立。96年～2003年、日本勤労者山岳連盟理事長。10年、同会長（～現職）。03年、日本山岳文化学会創立に参画、副会長。現在同会名誉会員。著書に『15年戦争下の登山研究ノート』（本の泉社 2010年）、『戦火に散った岳人たち』（私家版 2012年）、『人と山 随想・評論』（桐書房 2015年）ほか。

# 「谷川浜・植樹祭」の案内

～ 桜植樹祭の参加と募金のお願い ～

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、震源地に最も近い石巻市の牡鹿半島に壊滅的な被害をもたらしました。特に鮫浦湾の奥に位置する谷川浜（ヤガワハマ）は、湾の地形ゆえ23mもの大津波が押し寄せ、51戸あった集落のうち1戸のみを残して流失被害を受け、24名もの尊い命が奪われました。この谷川浜に私達ちば労山ゆうが支援活動に通うようになってまる4年になります。そして、来年の3月に5年という大きな節目を迎えるにあたり、御霊の鎮魂と牡鹿半島と房総半島の連帯の証として、地元の菩提寺である洞福寺に記念樹を植えることにしました。これまで以上に支援の輪を広げたく、植樹祭として開催致します。ふるってご参加ください。



再建された洞福寺本堂

## 植樹協力募金をお願いします

記念植樹には、およそ30万円かかります。  
みなさんの暖かなご支援をお願い致します。  
谷川浜に、「ゆう」と地元の「絆」を残そう。  
一口1,000円（口数は自由）  
お振込先 口座番号：ゆうちょ銀行

00240-8-98419

加入者名：NPO 法人ちば労山ゆう

**バスツアーに参加して・・・ちょっと早めの花見をしよう!!**

日程：2017年3月4日（土）～5日（日）

（植樹祭は4日に開催）

参加費：20,000円（往復のバス代、宿泊費）

募集定員：48名

問い合わせ先 佐藤勝子

tel/fax 043-306-5238 携帯 090-7631-4837

e-mail k-sato111@asahinet.jp



# 県連たより

## 千葉県勤労者山岳連盟（千葉労山）

- ◎ 県連盟事務所  
〒262-0033  
千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18  
レジデンス幕張台 101 号室  
TEL・FAX： 043-306-1190  
Eメール：[rousanchiba@grape.plala.or.jp](mailto:rousanchiba@grape.plala.or.jp)  
JR総武線幕張本郷下車、海側 徒歩5分  
(県連事務所に常駐者はいません)
- ◎ 千葉県連ホームページ  
<http://www.cwaf.jp>  
県連盟への問い合わせは、上記ホームページ  
事務局への問い合わせまでお願いします。
- ◎ 加盟会会員の事故一報送付先  
教遭委員長・岡田 賢一  
[ken-ichi@f4.dion.ne.jp](mailto:ken-ichi@f4.dion.ne.jp)  
Fax：043-271-4704  
事故一報は、全国連盟事務局にも必ず  
送付の事。
- ◎ 「ちばニュース」原稿送付先  
発行責任者：広木 国昭  
[danphiro@zpost.plala.or.jp](mailto:danphiro@zpost.plala.or.jp)
- ◎ 連盟費振込み先  
郵便振替口座 00160-3-481509  
千葉県勤労者山岳連盟
- ◎ 東日本大震災・支援金振込み先  
口座番号：ゆうちょ銀行  
00240-8-98419  
加入者名：NPO法人 ちば労山ゆう  
代表者 吉田 哲治
- ◎ その他、県連盟、全国連盟への、  
ご意見・問い合わせなどは・広木まで

## NPO法人「ちば労山ゆう」

- 「ちば労山ゆう」とは、東日本大震災を支援するために、千葉県勤労者山岳連盟を母体として活動を始めた、被災者支援NPO法人です。
- ◎ 「ちば労山ゆう」への入会は千葉県連盟ホームページから常時入会出来ます。
    - ・入会申し込みは  
<http://www.cwaf.jp/contact/10-2/>
    - ・「ちば労山ゆう」への問合せは  
<http://www.cwaf.jp/contact/09-3/>
  - ◎ 支援活動日のお知らせ
    - ・11月12日・13日 福島
    - ・12月支援活動はお休みです。
  - ◎ 支援物資販売活動について
    - ・支援活動に参加する皆様の、交通費などの補助・被災地の復興支援に取り組んでいます。ご協力をお願いします。
    - ・三陸・気仙沼直送の支援物資は「おさしみわかめ」「さしみこんぶ」「くきわかめ」「すき昆布」「とろろこんぶ」です。常時用意していますので連絡をお願いします。
- 支援物資に関する問い合わせは  
下記アドレスに連絡を！  
[danphiro@zpost.plala.or.jp](mailto:danphiro@zpost.plala.or.jp)

県連活動予定表

11月		行事予定	12月		行事予定
1	火	役員会	1	木	
2	水		2	金	
3	木		3	土	
4	金		4	日	
5	土	全国登山研究集会	5	月	
6	日	(オリンピックセンター)	6	火	役員会
7	月		7	水	
8	火		8	木	組織委員会
9	水		9	金	
10	木		10	土	
11	金		11	日	
12	土	事故防止経験交流集会 ゆう支援活動	12	月	
13	日		13	火	
14	月	6会合同会議(事務所)	14	水	
15	火		15	木	理事会
16	水		16	金	
17	木	理事会	17	土	
18	金		18	日	
19	土		19	月	
20	日		20	火	ハイキング委員会
21	月		21	水	
22	火		22	木	
23	水		23	金	
24	木		24	土	
25	金		25	日	
26	土		26	月	教育・遭難対策委員会
27	日		27	火	
28	月	教育・遭難対策委員会	28	水	
29	火		29	木	
30	水	50周年実行委員会(事務所)	30	金	
			31	土	

発行者：千葉県勤労者山岳連盟

〒261-0013 千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18

レジデンス幕張台 101号室

TEL・FAX 043-306-1190 (事務所に常駐者はいません)

発行責任者：広木 国昭

問い合わせ先：千葉県勤労者山岳連盟ホームページ 事務局への問い合わせ